

仙台市震災復興メモリアル等検討委員会報告書（平成26年12月）の概要

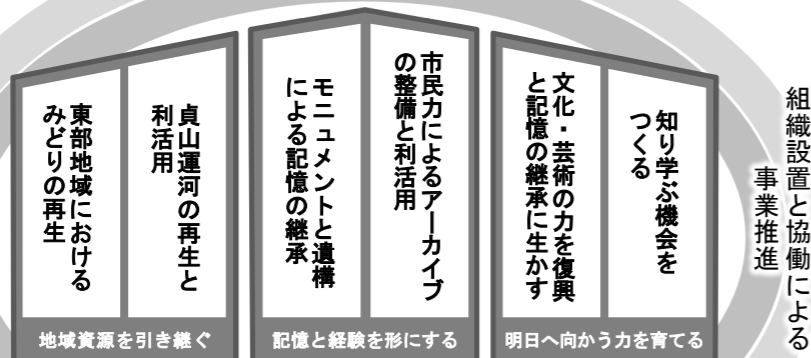
1 震災復興メモリアルに込める願い

時を経て 世代が変わっても 災害から命を守るために
 仙台市民一人ひとりが 東日本大震災の記憶と経験を
 未来へ 世界へ つなぐ

2 6つの取り組みの方向性

取り組み	取り組みの方向性	
① 地域資源を引き継ぐ	東部地域におけるみどりの再生	<ul style="list-style-type: none"> 市民の手で植え育てる仕組みづくり みどりへの多様な関わり方の創出
	貞山運河の再生と利活用	<ul style="list-style-type: none"> 歴史や文化、豊かな自然環境を伝える 多様な参加の仕組みづくり
② 記憶と経験を形にする	モニュメントと遺構による記憶の継承	<ul style="list-style-type: none"> 犠牲者や被災地域を悼む場やモニュメントの整備 津波の脅威を実感できる遺構の保存
	市民力によるアーカイブの整備と利活用	<ul style="list-style-type: none"> 市民一人ひとりの想いを含めたアーカイブの整備 震災の経験を伝え続けるための拠点整備 さまざまな手法での伝え方
③ 明日へ向かう力を育てる	文化・芸術の力を復興と記憶の継承に活かす	<ul style="list-style-type: none"> 文化・芸術による取り組みを将来につなげるための拠点整備 文化・芸術による取り組みの推進
	知り学ぶ機会をつくる	<ul style="list-style-type: none"> 自然現象や災害を知り学べる環境の整備 人材の育成 3月11日の過ごし方

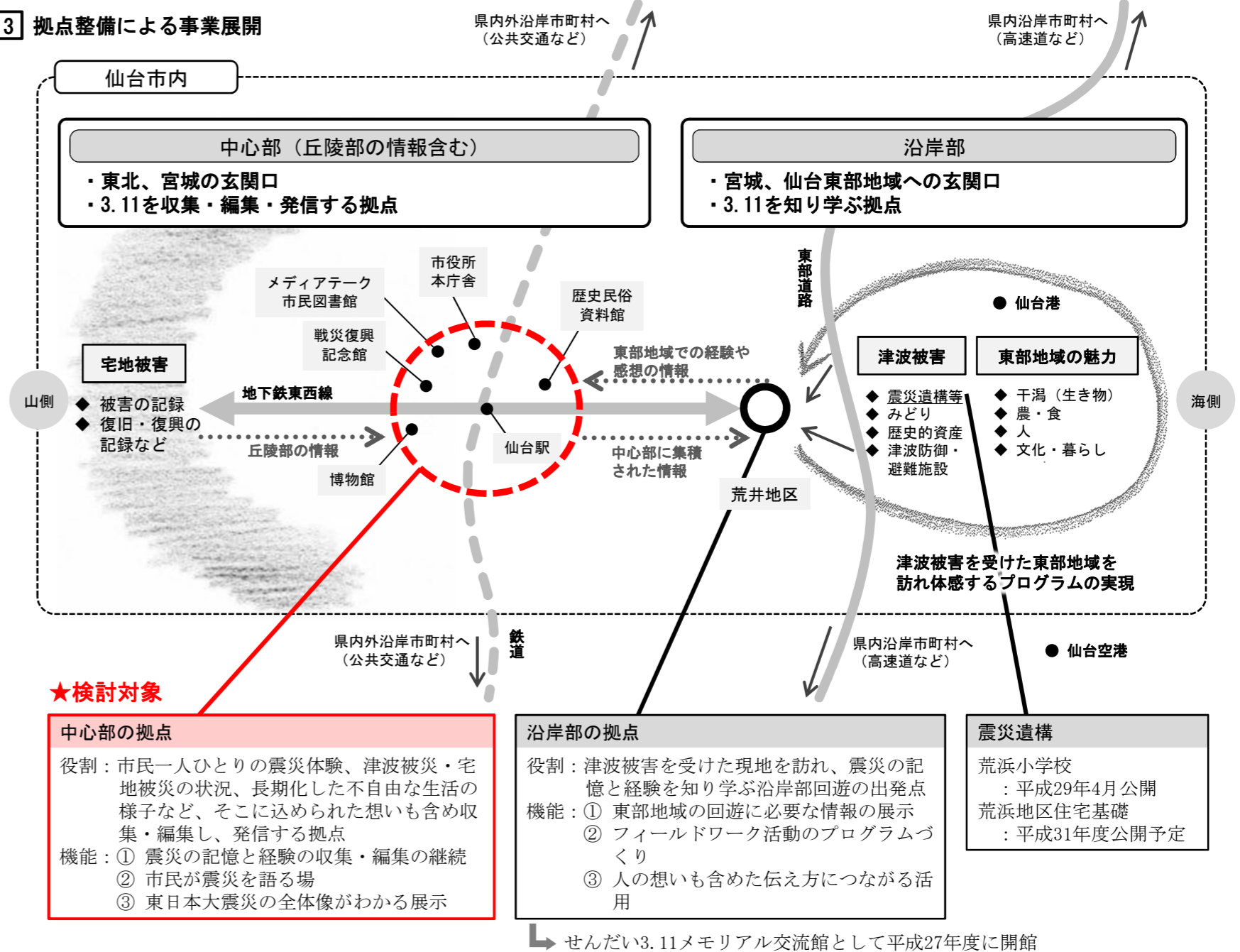
【震災復興メモリアルに込める願い】
 東日本大震災の記憶と経験を 未来へ 世界へ つなぐ



拠点整備による事業展開

概念図

3 拠点整備による事業展開



4 組織設置と協働による事業推進

■ 事業推進に必要とされること

- ① 組織の設置
 多岐にわたる事業を総括し、継続していくため組織を設置。施策の立案・実施、定期的な事業評価・振り返り、積極的な国内外への情報発信を実施。
- ② 多様な主体との協働
 多様な主体が知恵を集結し信頼関係を築きながら、協働による事業を進める。

■ 事業推進における留意点

- ① 多様性と変化への対応
 一つにくることのできない市民一人ひとりの震災の記憶と経験をくみとり、時間の経過による変化にも対応していく。
- ② 経験をつなぐ手法を生み出す
 甚大が被害が広範囲に及び、誰も経験したことのない東日本大震災の記憶と経験をつなぐための手法を生み出して。